



私たちの出番



同僚と契約園に向かう途中『ガシャン、ドーン』自転車と車が接触事故を起こし、車は民家に突っ込みました。即、事故現場に向かい、110番通報。自転車が倒れて2才～3才の子供は大泣き、母親はパニック状態で、病院へ行きましょうと促すが『手足も動くので大丈夫』の一点張り。『後遺症が起きる場合があるので行ったほうがよいのでは…』その後、徐々に落ち着きを取り戻してきた母親より何度も『本当に忙しい中私たちのためにずっといてくれて、いろいろしてくださって本当にありがとうございます。病院へ行きます』
今後も人が困っているときこそ私たちの出番と思い動いていきます。



躊躇しませんでした



園に向かうバスの中、突然、女性が倒れました。椅子に座っていた私は直ぐに立ち、女性を視診しました。意識はあり、会話も出来たので、ゆっくりと立ち上がり、椅子に座るように言いました。車内には、たくさんの人が居ましたが動いたのは、学生の2人と私だけ。

コロナの関係で女性に触れることは…でも、そんな事で躊躇して、もっと最悪な状況になったら…倒れた方、運転手さんから感謝のお言葉を頂きました。



『その方は、救急車に乗る 意思はありますか。』



帰宅途中、近所の公園で中学生二人組に『人が倒れているので助けてください！』と声を掛けられました。見ると70代位の男性が倒れていて頭から出血していました。その二人組に詳しく聞くと自転車から降りた瞬間、倒れたとの事。意識ははっきりしており、『大丈夫。』とは言うものの自力では起き上がれない様子。携帯で119番に電話し、現状と場所を伝えたところ、『その方は、救急車に乗る意思はありますか。』と尋ねられました。私にとって、それは意外な言葉でした。電話=出動だと勝手に思っていたからです。よくよく考えると毎年の救命救急講習で救急車の出動現状を伺っていたので納得しましたが、それを知らなかったら憤っていたかもしれません。

結局、倒れた場所の目の前にある男性宅(団地の3階)に10分ほど歩いてお連れしました。

今回、人助けをすると共に救急の現状を知る事が出来ました。もし救急車を呼ぶか否か判断に迷ったら、断られるかもしれない現状で連絡する。この経験を余り活かしたいとは思いませんが、万が一に備えておきます。

